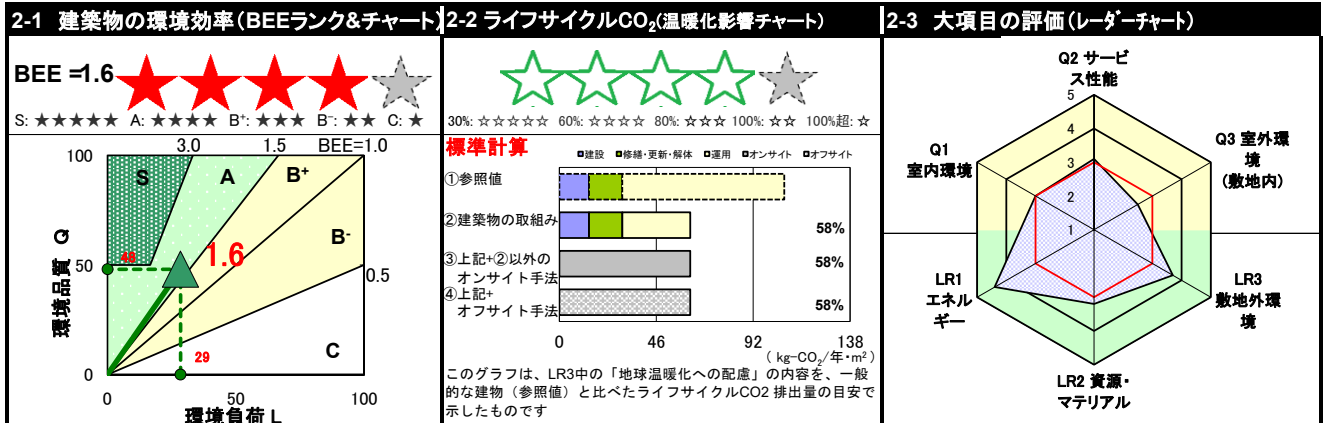


CASBEE® 名古屋

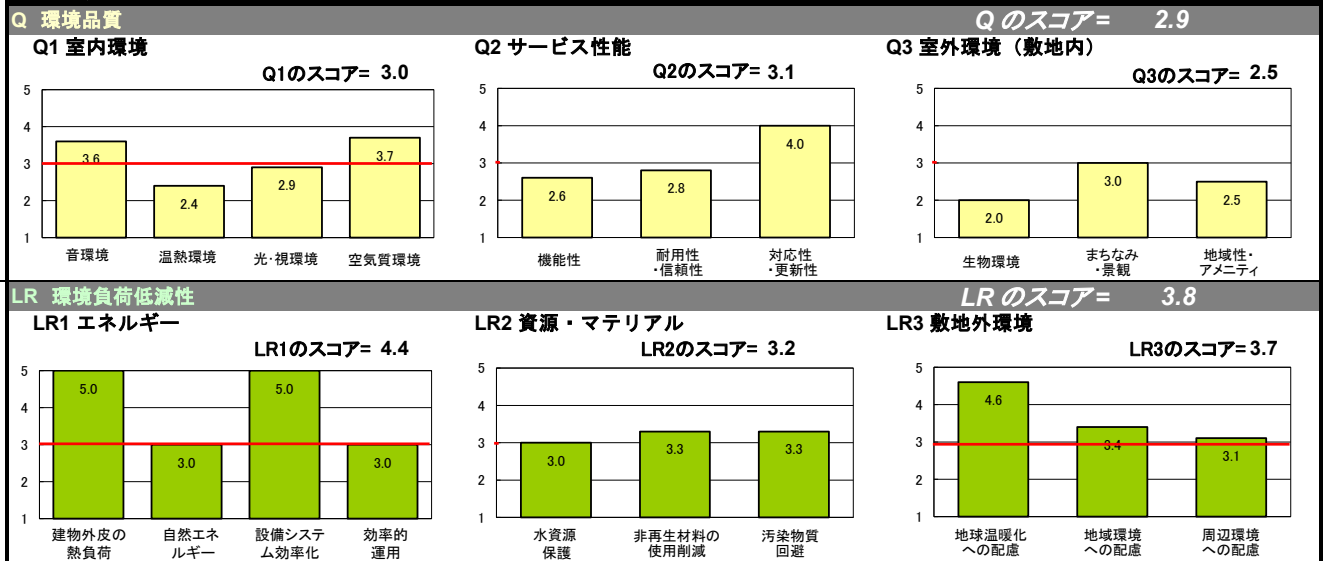
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境 2016年版、省エネルギー性能評価ガイドライン 2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋東桜1-3計画新築工事	階数	地上11F
建設地	愛知県名古屋市中区東桜1丁目303-1,303-2,304,305,312,313,314番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年4月 予定	評価の実施日	2026年6月9日
敷地面積	1,344 m ²	作成者	
建築面積	927 m ²	確認日	2026年6月17日
延床面積	9,956 m ²	確認者	



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
Q1 室内環境 開口部遮音性能: T-2以上 「事務所」: 床、天井に吸音材を使用している。 照度が500lx以上1000lx未満 建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍となっている。	Q2 サービス性能 事務室の天井高2.7m以上、売場の天井高3.6m以上 階高: 3.9m以上。そして、0.1≦[壁長さ比率]<0.3 床荷重: 事務所_5000N/m ² , 飲食店_2900N/m ² , 工場_7500N/m ²	Q3 室外環境(敷地内) 植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー BPI = 0.79 BEI = 0.42	LR2 資源・マテリアル LGSとOAフロアを使用している。 ODP=0、GWP=11の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率58%。 燃焼機器を使用していない。 光害対策ガイドラインの項目の過半を満たす。また、広告物照明は行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋東桜1-3計画新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.3
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.090143286	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009014329	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045071643	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.3



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。